

結婚における古代イスラエルとの類似性

✦ 文 岩本耕太郎 ✦
text by Kotaro Iwamoto

日本人は宗教に対してかなり寛容です。

お正月は神道の神社に初詣に行き、キリスト教のクリスマスを祝い、お葬式は仏教でと変幻自在です。一宗教の方たちがみたら眩暈がすると思いますが、よく言えば宗教に生活が制約されていないということです。

現在でこそ結婚式はキリスト教の教会で挙げられることが多くなりましたが、37年前に挙げた私の結婚式は神道式でした。

神道式の結婚式では両家の家族を一人ずつ紹介しあい、最後に花婿と花嫁は同じ盃を使ってお酒を酌み交わします。

キリスト教の教会による結婚式ではこういう儀式はしませんが、キリスト教になる前のユダヤ教の結婚式では同じようにぶどう酒を花婿と花嫁が同じグラスで飲みます。

花婿はその後ワイングラスを皆の前で割りますが、これはエルサレム神殿が今は壊されていることを覚えておくためだそうです。

他にも神道式の結婚式では花嫁は頭

に角隠しといわれる被り物をします。

現在では目から上を隠す程度のもですが、平安時代では顔全体を覆い隠すようなもので衣被^{きぬかき}とか被衣^{かすき}といわれ、女性は外出時に被ったそうです。一方でユダヤ人の女性は今でも結婚式のときに被り物をする習慣が残っています。

聖書にはイスラエル民族の父祖ヤコブが結婚式でラケルという女性と契りを交わしたつもりが、実は相手はラケルではなく、彼女の姉のレアであったという逸話があります。

被り物のせいで別人であることがわからなかったからだといわれています。

また、昔の日本の習慣で夫を戦争で亡くした女性が、その後夫の弟に嫁ぐということがあったそうです。これもユダヤの風習と同じで、聖書には「兄弟が一緒に住んでいて、そのうちの一人が死に、彼に子供がいない場合は死んだものの妻は家族以外の他人に嫁いではならない。その夫の兄弟が彼女のところに入り、これをめとって妻として夫の兄弟としての道を彼女に尽くさなければならぬ」（申命記25章）とあります。

神道の神主は元々独身制ではなく、

殆どの方が結婚されています。一方でカトリックの神父は独身でなければならず、日本以外の仏教の僧侶も独身が普通です。現在の日本の僧侶は結婚されていますが、明治以前は独身が当たり前だったそうです。古代イスラエルの祭司や現代のユダヤ教のラビは神道同様に元から独身制はない一方で、結婚にまつわる風習にも日本と古代イスラエルの類似点が多々認められるのです。



profile

帝国クリニック院長

1959年生まれ。幼少期をボストンで過ごす。

山形大学医学部卒。米国イリノイ州立大学で分子生物学を研究、1993年より現職。

サーフィンとクラシックカーをこよなく愛し、4世代7人家族。

著書に『患者さまが増える』（H&I出版）、『エグゼクティブが実践するたった一つの健康法』（中経出版）